
カードファイト!!ヴァンガード OVERA THE LOST

おだべば

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カードファイト！！ヴァンガード OVERA THE LOS

T

【Nコード】

N3634T

【作者名】

おだべば

【あらすじ】

数年前の不慮の事故で右目を失った少年、鳴神亮は惑星クレイの遺産の右目を代わりとして埋めつけられた。しかしその遺産は謎に包まれているが少年を奇跡へと導いてくれる力を秘めている。この遺産を持つ少年が見る物とは・・・？そして今、少年による出会いと戦いの物語が始まる・・・。

惑星クレイの遺産をもつ先導者（前書き）

初めての方は始めまして。ほかの作品でお世話になっている方はこんにちは。僕はおだべばと言います。今回はヴァンガードの二次創作に挑戦してみました。暇であれば是非とも読んで下さい。

惑星クレイの遺産をもつ先導者

ヴァンガード。それは、今子供達に流行っているカードゲーム。町中の子供達はこのカードゲームで戦う事を、ヴァンガードファイトと言う。そして、ヴァンガードを使いこなす人を、ヴァンガードファイターと呼ばれるのである。そんな中、このカードを使う少年がここにいたのである。

「これで終了させて貰うぞ！ドライブトリガーチェック！クリティカルトリガー発動だ」

「何！？ダメージトリガーチェック。・・・俺の負けだ・・・」

「凄い・・・。たった5ターンで勝つなんて・・・」

周りの人達は、この少年の戦い方に驚く。

「これで10連勝か・・・。流石にこれは疲れるな」

少年は自分のデッキをしまい、この店の店長に礼を告げた。

「ありがとうございます。僕はこれで帰らせて貰います」

「そうか、もう帰るのか。所でお前さんの名は？」

「鳴神亮です。ちなみに名前の文字は亮って書いてありますが、たすく』って読みますので間違わないで下さい」

「分かった。それじゃ、また来てくれよ」

店長に挨拶して店を出る亮。すると何かに気がついた。

「この店って結構カードファイトするもんだな。まっ、僕にはあまり関係ないけど」

亮は右目を手にあてながら道を歩いた。

「この右目、数年前からついてるけど……。惑星クレイの遺産って本当なのか……？」

そう、亮は数年前に不慮の事故で右目を失い代わりに惑星クレイの遺産とも呼ばれる右目を埋めつけられた。この右目にはファイトしている時に生で惑星クレイにいる感覚が得られる事ができ、更には自分分がピンチに負いつけられた時に逆転のチャンスへと変える能力も発揮すると言われる。しかし、この右目は当時の医者に聞いても『これは何処から貰ってきたのか分からない』と証言した事なので一体誰が見つけたのかは未だに判明していないのである。

「けれども必ず何かあった時は勝たせてくれるような気がするし……」

独り言を呟きながら道を歩いていると、

「これで終わりよ！クリティカルトリガー発動！」
「くそ、ダメージトリガーチエック。負けた・・・」

誰かがファイトとしている姿を目撃した。

「まだまだ甘いようね。これじゃただの素人ね」

「畜生！！覚えてろー！」

「今時女の子がファイトするなんて珍しいな」

亮は今ファイトしていた少女に凄いと頷いた。ところが、

「あなた、何じろじろ見てるのよ」

その少女に睨まれつつ、気がつかれた。

「なッ！？別に・・・。ただ凄いなあっと思って」

「凄いや？私にはそう見えないけど？」

「そんなことないよ。今のファイト凄かったし」

亮は白々しいと思われてしまうが何とか誤解されないように話を続ける。

「それにほら、さっきのユニット凄くかつこよかったよ」

「どう考えてもわざとらしい言い方にしか思えないわ・・・」

「何だよ！？どうして僕の考えがわざとらしいんだよ！」

「口ではそう言ってるけど、実際はどうでもいいと思ってるに違いないはず」

「だったらそうしたら認めてくれると言っただよ」

すると少女はこう提案した。

「そしたら、私とファイトして勝ったらあなたの話を認めてもいいわよ」

「こついう時でもファイトか・・・」

「何？私の考えが可笑しいと思ってると言いたいのか？」

「そんな事ないさ。いいぜ、この勝負乗ったよ」

「じゃあ決まりね。但し、私が勝ったらあなたを毒舌男と呼ばせて貰うわ」

「何だよその差別的な決め方は・・・」

少女に嫌味つたらしい顔で見られて悔しがる亮は、自分のデッキを取り出した。

「本当に僕が勝ったら僕の話を確認してくれるんだろうな？」

「勿論よ。私は約束を破らない主義なのよ」

「そうか。だったら始めようか」

少女も自分のデッキを取り出し、シャッフルをして互いに一枚のカードを場に出した。

「「スタンドアップ、ヴァンガード！！」」

そして互いにユニットがオープンされた。

「見習い騎士 ルーク！」

「深海の妖精 カイナ！」

2人のヴァンガードファイトは今、幕を上げた。

惑星クレイの遺産をもつ先導者（後書き）

最初はこんな感じですが、後からどんどん物語を展開していくので楽しみにして下さい。それではまた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3634t/>

カードファイト!!ヴァンガード OVERA THE LOST

2011年10月8日19時59分発行